

事務事業名		市民バス整備事業		所属部	政策企画部	所属課	地域振興課
総合計画体系	政策名	〈Ⅱ環境に配慮した安全・快適な生活環境づくり〈定住環境〉〉		所属G	公共交通・国際交流グループ	課長名	加津山 幸登
	施策名	〈09公共交通ネットワークの整備〉		担当者名	金森 里志	電話番号	0854-40-1014 (内線) 3519
	目的対象	公共交通機関利用者	意図	公共交通機関を使って日常生活で安全・便利に移動ができるようにする。			
	基本事業名	〈023交通体系の充実・強化〉		予算科目	会計 款 大事業 大事業名 0 1 1 0 0 2 項 目 中事業 中事業名 0 5 7 5 0 9	公共交通対策事業 市民バス整備事業	
目的対象	公共交通機関利用者	意図	利便性の高い公共交通機関を利用できるようにする。				

1 現状把握 [DO]

(1) 事業概要

① 事業期間
<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (23年度～)
<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度～年度)
② 事業内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述)
雲南市民バス事業を継続的に安全に行うために、計画的に車両の更新を行う。(目安は、車両年数が10年を経過あるいは走行距離が50万キロでの更新が望ましい)

(2) 事務事業の手段・指標

手段	① 主な活動	24年度実績(24年度に行った主な活動)	25年度計画(25年度に計画する主な活動)			
		中型33人乗りバス購入 1台	吉田大東線運行 大型バス購入 1台			
	② 活動指標	単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(計画)
	ア 更新台数	台	0	3	1	1
	イ					
	ウ					
	エ					

(3) 事務事業の目的・指標

目的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	バス車両	③ 対象指標	単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(計画)
			ア 保有台数	台	28	29	29	29
			イ					
			ウ					
	② 意図(対象がどのような状態になるのか)	安全で計画的に運行を行える。	④ 成果指標	単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(計画)
			ア 10年経過車両数	台	22	19	19	21
			イ					
			ウ					

(4) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (24年度決算)	② コストの推移	単位	22年度(決算)	23年度(決算)	24年度(決算)	25年度(計画)
備品購入費 市民バス車両購入費 9,644千円 (中型33人乗りバス1台)	財源内訳	千円		22,834		
	国庫支出金	千円				
	県支出金	千円				
	地方債	千円			9,500	20,000
	その他	千円				
	一般財源	千円			144	
	事業費計(A)	千円		22,834	9,644	20,000
	人件費	人		1	2	
	正規職員従事人数	時間		40	273	
	延べ業務時間	千円		158	1,070	
	人件費計(B)	千円		22,992	10,714	
	トータルコスト(A)+(B)	千円				

(5) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
市が所有する29台の市民バスのうち、車齢が10年を超える車両が平成24年度末には19台となった。バス運行を取り巻く状況も、高速バスの死亡事故により、安全な運行と運行管理の再点検が求められている。	必要に応じて修繕により対応している。近年、車両の老朽化により修繕内容も変化し、また修繕費についても高額となっている。修繕で効くところはよいが、いずれ修繕できない故障の発生が考えられる。	車両の故障により代替車両での運行も行なっているが、故障が増え故障時期が重なり代替車両の確保が困難となる。車両の老朽化により乗り心地が悪いうえ、自動ステップなどが無い車両は車高が高く、高齢者などに利用しにくい現状となっている。

事務事業名	市民バス整備事業	所属部	政策企画部	所属課	地域振興課
-------	----------	-----	-------	-----	-------

2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？		見直し余地があるとする理由																					
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている * 余地がある場合⇒																						
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して達成する目的か？																							
B 有効性	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？意図を限定・拡充する必要はないか？																							
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である * 余地がある場合⇒																						
	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方ははないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？																							
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある	理由	年次の計画的にバス車両を更新する必要がある。29台保有しており、購入後10年以上経過した車両も相当数あることから、安全運行の観点からも計画的な車両の更新が必要。その際に、市民バスの再編計画による車両の適正台数や車両規模を熟考し、行うものとする。																					
	<input type="checkbox"/> 向上余地がない																							
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？		理由	市民バスの安全で計画的な運行が不可能。																				
<input type="checkbox"/> 影響無	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有																							
D 公平性	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？																							
	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がある * ある場合⇒	(具体的な手段や類似事業名)																						
	<input type="checkbox"/> 他に手段がない	理由		スクールバスとの連携が考えられるが、市民バスのほとんどがスクール混乗となっている。																				
C 効率性	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)		理由																					
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない		10年経過車両が多くあることから、修繕費が年々増加傾向にあり、すぐに削減することはできない。																				
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？																							
<input type="checkbox"/> 削減余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由	備品購入であり、人件費の削減余地はない。																					
D 公平性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？		理由																					
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である		すべての市民が利用できるバスであるため、公平・公正である。																				
評価 の 総 括	① 1次評価者としての評価結果		② 1次評価結果の総括(根拠と理由)																					
	A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり		保有車両に比較し計画的な車両の更新が進んでおらず、10年以上経過し走行距離も30万キロ~50万キロ以上となっている車両も多数存在する。適切な修繕等を行い安全運行に細心の注意をはらっているが、今後、修繕では効かない故障の発生も懸念されるので、計画的な更新が必要である。																				
3 今後の方向性【PLAN】																								
① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		② 改革・改善による期待成果																						
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上		●																					
	維持			×																				
	低下		×	×																				
計画的な車両更新と共に、デマンド型乗合タクシーの導入促進などで保有車両の縮減も検討していく。		<p>廃止・休止の場合は記入不要。          コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。</p>																						